

松本 俊彦 氏

(高校38回卒)

国立精神・神経医療研究センター

精神保健研究所 薬物依存研究部部長

同センター病院 薬物依存症センター長



<経歴>

- 1993年 3月 国立佐賀医科大学卒業
- 1993年 4月 横浜市立大学医学部附属病院 臨床研修医
- 1995年 4月 国立横浜病院精神科シニアレジデント
- 1996年 4月 神奈川県立精神医療センター 医師
- 2000年 4月 横浜市立大学医学部精神医学教室 助手
- 2004年 1月 国立精神・神経センター精神保健研究所
司法精神医学研究部 専門医療・社会復帰研究室長
- 2007年 4月 同 研究所 自殺予防総合対策センター 自殺実態分析室長
- 2010年 4月 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
自殺予防総合対策センター 副センター長
- 2015年 4月 同研究所 薬物依存研究部 部長
- 2017年 4月 国立精神・神経医療研究センター病院
薬物依存症センター センター長 兼務

<主な活動内容>

薬物依存症と自殺予防を専門とする精神科医として、かれこれ30年間活動してきました。なかでも、薬物依存症の治療法を開発して国内各地への普及に努めるとともに、薬物依存症に対する苛烈なメディア報道を変え、薬物依存症が「回復できる病気」であることの啓発に尽力してきました。心の残っているのは、そうした啓発活動の中では、厚生労働省のイベントで元プロ野球選手の清原和博さんや元俳優の高知東生さん、元「歌のお兄さ

ん」の杉田あきひろさんらと共演したり、TBS ラジオの荻上チキさんの番組で、自身が策定にかかわった「薬物事件報道ガイドライン」の特集に出演したことがあげられます。

<受賞歴、メディア実績、発行物等>

【受賞歴】

- ・星和書店「精神科治療学」優秀論文賞（2006）
- ・日本犯罪学会学術奨励賞（2011）
- ・日本アルコール・アディクション医学会 柳田知司賞（2017）
- ・Neuropsychopharmacology Reports Topic Award 2021（2021）
- ・日本エッセイストクラブ賞（2022）

【主著】

- ・「自傷行為の理解と援助」日本評論社（2009）
- ・「アディクションとしての自傷」星和書店（2011）
- ・「自傷・自殺する子どもたち」合同出版（2014）
- ・「アルコールとうつ、自殺～『死のトライアングル』を防ぐために」岩波書店（2014）
- ・「自分を傷つけずにはられない」講談社（2015）
- ・「もしも「死にたい」と言われたら―自殺リスクの評価と対応」中外医学社（2015）
- ・「薬物依存症」筑摩書房（2018）
- ・「誰がために医師はある―クスリとヒトの現代論」みすず書房（2021）
- ・「世界一やさしい依存症入門」河出書房新社（2021）

<高校時代はどんな学生だった？>

高校時代はお世辞にも模範的な生徒ではありませんでした。今だから言えますが、たまり場となっていた友だちの家で夜な夜な酒盛りをしたり、学校をサボっては小田原市立図書館で様々な本を乱読する毎日でした。そのせいで1年浪人してしまいましたが、図書館での乱読経験は、後に精神科医としての底力になったと確信していますし、自身の著書が2022年の日本エッセイスト・クラブ賞を受賞できたことに大きな影響を与えていると思います。

<在校生・卒業生（後輩）へのメッセージ>

たくさん遊び、たくさん学び、できるだけ多くの本を貪り読んで、自身の発想の引き出しを増やしてください。